

【上富】上富地区を走る関越自動車道は、翌年（昭和46年）の開通に向けて急ピッチで工事中。のぞみちゃんがよく利用するスマートICどころか、まだ三芳PAもできてないね(↓)。周辺(上富の中東・北永井の宮前や吹上)には、江戸時代の新田開拓以来受け継がれてきた雑木林が多く残っていたんだね(↓)。



【北永井】町制施行当時の三芳町役場は、北永井 358-1（現在のいるま野農協三芳支店の場所）にあったんだよ(↓)。新庁舎は7月に完成したばかり。一方、現庁舎の所在地（藤久保 1100-1）には雑木林が広がっていて(↓)、間を抜ける道は細くて暗い道だったんだって。



歴史民俗資料館からのお知らせ
町制施行40周年記念特別展
『写真で見る三芳町のうつりかわり』
 10月30日(土)～12月19日(日)
 ※今回掲載した写真を含め、40年前と現在の写真を対比させて、三芳町の変遷を見ていきます。
 歴史民俗資料館 ☎258-6655

空から見た 三芳のうつりかわり

昭和45年（40年前）と平成19年に撮影された航空写真を使って、三芳町がどのように変わったか、みらいくんたちと一緒に見ていきましょう。



【藤久保】写真左下(↑)は、東京証券運動場と時事通信社三芳園だよ。ここは、平成18年に複合商業施設と住宅街に生まれ変わったんだ。昭和45年頃当時は、鶴瀬駅の改札は東側のみで、現在の西口付近には畑が広がっているよ(↑)。藤久保第一区土地画整理(↑)の開始前と今とでは、ずいぶん様子が違うんだね。



教育だより

町制施行
40周年
記念特集

【竹間沢】今では工場や倉庫が建っている竹間沢東地区には、かつて水田が広がっていたんだ(↓)。柳瀬川は今より曲がって流れているよ。写真の左上(↓)は、今のみよし台地区の一部。雑木林だった様子がわかるかな。

図書館だより

中央図書館 ☎258-6464
火～金 10:00～19:00 土、日 10:00～18:00
竹間沢分館 ☎274-1722
火～日 11:00～18:00



10月の予定

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

＜中央図書館＞
 ぐりぐらタイム (絵本・紙芝居・手遊び・本の紹介)
 第1・3金曜日 (保護者同伴)
 11:00～11:15 6ヶ月～1歳
 11:20～11:40 2・3歳
 第2・4火曜日 16:00～16:30 3～8歳
 心としゃかんくらぶ会員制一 第4土曜日 (読み聞かせとブックトークの会 / 小学生向き)
 10:10～11:00 1・2年生
 11:10～12:00 3～6年生

親子でえほん
 ～長野ヒデ子先生の絵本をたっぷり～
 10:20～11:00 2～5歳 20名
 11:20～12:00 5歳～小学生 30名
 ※当日参加。申し込みは不要。

えほんとにんぎょうのへや (絵本と小さな形劇)
 10:30～11:00 1・2歳以上向き 30名
 11:30～12:00 3～8歳向き 35名
 ※3歳以下は保護者同伴で。
 ※中央図書館で受付中。電話可。

国民読書年・町制40周年・中央図書館20周年記念事業
 絵本作家 **長野ヒデ子先生講演会**
 ～絵本『おかあさんがおかあさんになった日』から『ひらがなにっき』まで～

11月13日(土) 13:30～15:30
藤久保公民館ホール

定員：150名
 対象：おとなの方 (3年生以上可)
 ※講演会の前に、図書館利用者の体験発表、三芳町内読書ボランティアの紹介があります。

【講師紹介】愛媛県生まれ。絵本やエッセイ、紙芝居など幅広い創作活動を続け、これまでに多数の作品を生み出している。日本の絵本賞・文部大臣奨励賞、けんぶち絵本の里びばからす賞、日本絵本賞などを受賞。

※保育あり。1歳以上5名。申込み順。
 ■問い合わせ・申込み
 *中央図書館 ☎258-6464
 *藤久保公民館 ☎258-0690

記念講演関連 **ビデオ上映会**
なまえをわいた ～吉田一子・84歳～
 (NHK教育放送 1月17日放映)
 11月14日(日) 11:00～12:00
 対象：小学生～おとな ※当日参加
 【内容】絵本『ひらがなにっき』(長野ヒデ子作解放出版社)のモデルになった彼女の人生と、絵本が誕生する背景を紹介するドキュメンタリー。小さい頃から子守りに出、学校に通えなかった一子さんは、60歳を越えてから識字学級に通い始めます…。

【地域文庫のお知らせ】
 (児童書の貸出、お話しなど。)
つくし文庫・9月18日(土)、10:00～12:00
 場所 / 上富1区第1集会所にて
あらた文庫・毎火曜日15:30～18:00
 場所 / 荒田自宅にて
 (藤久保536-4三芳東中学校近く)

健康スポーツライフ

このコーナーでは「スポーツと健康」をテーマに、様々な役立つ情報をみなさんにお届けします。
 問い合わせ 総合体育館 ☎258-0311

まだまだ暑さの残る今日この頃。みなさんは、いかがお過ごしですか?今回から3回に渡り、サプリメントについて掲載します。一緒に考えていきましょう!!

いまや薬局やコンビニエンスストア等で、気軽に手に入れる事が出来るサプリメント。このサプリメントは、あくまでも栄養補助食品。基本的には、食事で不足する栄養素を補給する為に摂るものと考えましょう。ただ、マグネシウム：カルシウムが1：2～1：3と摂取比率が決まっているものや、1日の摂取量(例、亜鉛15mg / カルシウム600mg)もあり、栄養素によっては過剰摂取により様々な症状が出る場合もあります。

現代日本人は、カルシウムやマグネシウム、鉄や亜鉛と言ったミネラルが不足していると言われてます。これらの栄養素が不足していると、イライラしたり、貧血や免疫力低下、骨粗鬆症、味覚障害を引き起こしていきます。これらは、ひじきやあさり、鯖、海藻、牡蠣…と言った、主に魚介類から摂る事が出来ます。昔の日本人の食卓に並んでいたメニューの主な食材ですよ?トレーニングを楽しむ。食事の事も考えながら楽しむ…。体の内と外、両方共に健康な体作りを楽しんでみませんか?



● 少人数制レッスン (22年度第IV期) ●

受付開始：10月20日(水)、午前10時
 直接来館、または電話にてお申し込みください。

クラス	癒しのヨガ	らくらく健康体操
講師	大家 晴美	溝越 優貴子
日程	11/2,9,16,23,30 12/7,14,21	10/28,11/4,11,18,25 12/2,9,16
時間	11:30～12:30	11:15～12:15
場所	多目的室	武道場
定員	15人	15人
料金	4,000円	4,000円

クラス	親子ピクス (ひよこクラス)	親子ピクス (こっこクラス)
講師	戸井 玲子	
日程	11/2,9,16,23,30,12/7,14,21 全て火曜日 (全8回)	
時間	10:00～11:00	11:00～12:00
場所	武道場	
定員	20組	20組
料金	4,000円	4,000円
対象	1～2歳(立つことが出来る子から)	2～4歳

※今期より全クラスとも継続申込の方を優先受付させていただきます。ご了承ください。



教育トピックス

「暑い!」猛暑日の連続記録が日に日に更新されるほど、今年の夏休みはとにかく暑い日が続きました。この傾向は今年だけではなく、地球温暖化の影響ではあるか、「こ数年「暑い夏」が当たり前のようになっています。

夏は部活動に励む中学生にとって、技や技術を磨くために苦しい練習に耐える「自分」との戦い、身に付けたその技を出し切る「相手」との戦いの他に「暑さ」との戦いを強いられることになる辛い時期となってしまいました。

町の中学生のほとんどが部活動に参加しています。同じく部活動に興味をもつ者同士が集まり、学年を越えて活動する部活動では、教室での普段の授業とは違ったことを学ぶことができます。部活動に所属する中学生の八割近くが運動部に所属しています。それぞれの競技に特有の面白さ(醍醐味)があり、生徒たちはそこに惹きつけられ没頭することになるので、その中で忍耐、人間関係(先

今年度のトピックスでは、小学校1年生の時から柔道を始め、柔道を愛し、柔道にひたすら打ち込んできた一人の少年を紹介いたします。三芳東中学校3年生の山崎和也君です。

今年度の学校総合体育大会において、入間東部大会、県大会と「相手」に勝ち続け、みごと全国大会出場という偉業を成し遂げました。陰で「自分」と「暑さ」との戦いを制したことは言うまでもありません。全国大会出場のご感想、「暑さ」をどのように征したか聞いてみました。以下は山崎君の話です。

「暑さ」をどうにか乗り越えたいです。今年度の大会で優勝した時です。準決勝で優勝と接戦でした。どちらも判定で勝つことができました。審判が自分の色の旗をあげるのを目に入った瞬間、心の底から喜びがわいてきました。「暑さ」との戦いでしたが、試合前に2～3kg減量しなければならなかったので、「暑さ」を逆に利用しました。だから、苦にはならなかったです。全国大会では緊張しすぎてしまいました。結果を出しましたが、自分の欠点があったので、高校に行っても柔道を続け、インターハイ出場を狙っています。」

「暑さ」という苦境すら利用して、前向きに進んでいく山崎君の意志の強さを感じました。



自分・相手・そして暑さとの戦い! 中学校部活動

技の文化財

第七回 鍛冶屋

しほしほも休まず 焼つづき 飛び散る火花よ 走る湯玉 火の風さえ 思をちかす 仕事に精出す 村の鍛冶屋

童謡でも歌われた村の鍛冶屋。鍛冶とは異なる、主に鉄や鋼などの農具を扱う「野鍛冶」のこと。明治後期、農業改良が進んだおかげで鍛冶屋の仕事も増え、以前ほどの村にも一軒はありました。三芳では多くの人が長く農業を中心とした生活を続けており、村に鍛冶屋があれば大概の農作業道具は整ったと言えます。町内では、かつて竹間沢と上富に鍛冶屋があり、竹間沢では、昭和二十年代まで鍛冶屋が営まれていました。

竹間沢には、軒の鍛冶屋があり、そのうちの軒は「トウちゃん」の鍛冶屋とも呼ばれ、トンカチと鉄を打つ音がする、近所の子供たちでよくのぞきに行っていたと言います。商標には「㊦」のしるしに「代目」の二を付けた「㊦二」と定め、製品に焼印を押して販売をしています。製造した道具としては、鉄・鋤・三本鉄から鎌やナタ、茶刈りバサミ、井戸のつるべ用、鎖など多岐にわたっています。特に、鍛冶屋がいやすいものを作ってくれたと評判が良かったようです。

現在は量販店などで規格化された農具が売られていますが、以前は

使う人に合わせて作られたオーダーメイドでした。中でも鋤と柄の長い農具は、土地に柄の土堅さや使う人の背丈に合わせて柄の角度や刃の反り具合を調整しなければならず、どんなに切れる刃物であっても、使う人に合わなければ「使いにくい道具」として使われなくなります。「人に合わせて作るのが鍛冶屋の仕事」と言い、微妙な調整は、職人の長年の勘によるものでした。

修理も鍛冶屋の大事な仕事で、以前は鋤などの刃先が減つくと「サキカケ」として刃の先だけを継いで修理を行い、そのおかげで農家は、手になじんだ農具を長く使い続けることができました。

戦後、農業の機械化が進み、海外からの安価な農具が輸入されるなどの影響で、多くの鍛冶屋は廃業を余儀なくされ、三芳の鍛冶屋もその火を消しました。歌も口ずさまれなくなつてしまいましたが、今でも「あの鉄は使いやすかったなあ」と、村の鍛冶屋の思い出だけが残っています。




▲同じ三本鉄でも、角度や柄の長さが微妙に異なります。
 ▲「㊦二」の焼印が押された農具